



あふれる あふれる
あなたを慕う思い
みそばに 引き寄せて主よ
慕い求めます

「どうか、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころに
関する真の知識に満たされますように。」(コロサイ1章9節)

クライスト・フォー・ザ・ネーションズ・ジャパン聖書学院

CFNJ NEWS

2016年7-8月号 NO.164

「霊的形成」

—スピリチュアル・フォーメーションについて—

ニューライフクリスチャン
チャーチ牧師

豊田信行師



■霊的形成(スピリチュアル・フォーメーション)とは、簡単に言うなら、私たち自身がどのようにキリストに似せられていくのかということですが、今回の講義では、その霊性神学の第一人者であるダラス・ウィラード師の著書『心の刷新を求めて』の内容を通して、霊的形成の基本的な部分である「魂の本来の役割」を学んでいきたいと思っています。

霊性神学の必要性

■アメリカのシカゴにあるメガ・チャーチ「ウィロークリーク・コミュニティーチャーチ」の牧師であるビル・ハイベルズ師が、2007年から2011年までの4年間、教会に通う信徒に「あなた自身はどれだけキリストに似たものへと変えられていますか?」というアンケートをとりました。そのアンケートの結果、多くの教会員が霊的な停滞を経験しており、霊的な成熟を求めて他の教会へ移るべきではないか、と思っていたそうです。そのような状況のなかで、ビル・ハイベルズ牧師は、ダラス・ウィラード師を教

会へ招き診断を求めました。その時、ダラス・ウィラード師は、「教会員の魂をどのように扱ってききましたか?」という質問をされました。その質問に対しビル・ハイベルズ牧師は、「信徒の幼少期の成長(魂の救い)に囚われていて、信仰の青年期における成熟(魂の活性化)については、各自が、成熟の道を模索するようにと教会は関心を示すことをせず放置していました。」と答えました。私たちは魂に対して、救われたか、救われていないかという尺度でしか判断することがなく、魂を救いの対象としてしか取り扱ってこなかったのです。魂の救いや癒やし、依存からの回復などは、あくまでもマイナスから0(ゼロ)地点までの成長の話であり、本来の教会は、0地点からキリストへ似たものへと変えられていくことを喜び、実感する必要があります。

ダラス・ウィラード師は、「長期的ではあるが、もっとも効果的な伝道とは、私たち自身がキリストに似たものへ変えられていくことである」と話されています。キリストを伝えるのではなく、キリストに似たものとされていくことこそ、効果的な伝道なのです。

■私たち教会は、イエス・キリストの香り、品性がどれだけ醸しだされているかを重く深く受け止めていく必要があります。ダラス・ウィラード師は、今日、多くの人々がカルトや異端の宗教へ流れていく理由のひとつに、教会が魂の取扱いをしていないことがある、と話されています。また、カルトや異端は、そのような教会から離れている人々をターゲットにしています。

魂の本来の役割

■ウィロークリーク・コミュニティーチャーチが発行した「イエスのようになる-BECOME Like Jesus-」という冊子の冒頭に、「どんなときでも、人生を動かしているのはその人の魂です。外的な環境や思考、意図、感情などはありません。あなたという人間全体の中で、自己のさまざまな側面で起きているすべてのことを相互に関連づけ、統合し、活性化するのは魂なのです。それは人間のいのちの中心です。」というダラス・ウィラード師の言葉が引用されています。私たちの人生を動かしているのは魂です。いばん深い所で、私たちの人生を方向づけているのは魂なのです。

■魂の本来の役割は、あなたという人間全体の中で自己のさまざまな側面から起きているすべてのことを相互に関連づけ、統合し、活性化することです。では、この魂の三つの役割を一つずつ見ていきましょう。

魂の関連づけ

「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」ローマ書8章28節

■ローマ人への手紙を読むならば、「神がすべてのことを働かせて益としてくださる。」と書かれています。すべてのことが関連づけられているのです。私たちの人生に起こる一つひとつの出来事に対して「どうしてですか。」と心に向けて

思い悩んでいるならば、なぜ神がそのような出来事を許されているのか理解することはできません。そのような出来事は、関連づけられて初めて理解できます。関連づけられることによって苦しみを理解できるようになります。関連づけられるのは、神の働きですが、それを理解していくのは私たちの魂の役割です。

私たち、神につまずく時というのは、関連づけられていない一つひとつの出来事に心を開いている状態の時です。魂の役割が回復していくと、関連づけられていないような出来事が繋がっていき、なぜこのような出来事が起きたのかを理解することができるようになります。これが、魂の本来の働きです。

魂の結合

「私には、自分のしていることがわかりません。私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行っているからです。」ローマ書7章15節

■罪の働きは「引き離す」ことであり、魂が「統合」していくことは回復です。罪が入ったことによって私たちは解体されていきます。パウロもローマ人への手紙で、「自分のしていることがわかりません。」と書いています。そのような、自分自身が解離している状態は罪の力によるものです。多くのクリスチャンは、このパウロと同じような葛藤をもって生きています。どうでもよいと思える人のことは気にしませんが、愛したいと思う人ほど、憎んでしまう。多くの憎しみは、親しい関係のなかで起こるものです。このような出来事に罪のジレンマがあります。この人を一生愛していこうと誓った人を愛せない、それどころか憎しみを抱いてしまう。まさに、罪がもたらした解体、「自分が憎むことを行ってしまおう。」というパウロの嘆きは、心が罪によって引き裂かれている状態を示しています。しかし、魂の本来の役割は、関連づけだけではなく、引き裂かれた物をひとつにしていくことでもあります。クリスチャンの成長とは、この矛盾がな

くなっていくということであり、優しくしようと思つたらなんの葛藤もなく人を愛することができるようになることです。

魂の活性化

■魂が本来の役割を発揮するには、魂が活性化されなければなりません。魂が物事を関連づけ、統合していくならば、その魂は生きたまのとなりです。魂が本来の働きをしていないならば、どれだけ素晴らしい礼拝のなかで感情的な、癒しや励ましがあったとしても、魂が活性化されることはありません。では、どのようにすれば魂は活性化されるのでしょうか？

心を見守ることについて

「力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。」箴言4章23節

■「あなたの心を見守る」とは、具体的にはどのようなものなのでしょうか。いのちの泉はこれから湧く、と聖書には書かれています。私たちは、内側から溢れてくるものがなければ、人に伝えることはできません。義務感で仕えることも可能ですが、それは、苦しく負担となるでしょう。どれだけ多くの人が、自分の内にある泉をいのちの水として湧きあがらせることができるのでしょうか。

■私たちは、聖霊様の満たしを経験することがあっても、自分のなかにある泉が湧き上がることをどう理解しているのでしょうか。悪い心から自分を守ることや、イエス様を心に向けて行くことはできているかもしれませんが、それだけでなく、魂の働きにも目を向けて行く必要があります。私たちの魂が、すべてのことを関連づけ、統合し、活性化されていくために、私たちは自分の心を見守らなければなりません。■

講義 CD、DVD の販売について

■豊田信行師の特別講義「霊的形成」の一時間目の講義を、下記のリンクで視聴することができます。

<https://vimeo.com/168590260>

二時間目以降の授業を視聴したい方は、CFNJ 聖書学院 (office@cfnj.com) に Eメール、又は、電話/FAXにてお問合せください。それぞれ、CDまたはDVDにて購入が可能です。詳しい講義内容は次の通りです。

- ① 霊的形成 - 魂の取扱いについて
- ② 霊的形成 - 魂のケア
- ③ 霊的形成 - 恵みと律法
- ④ 霊的形成 - 霊的礼拝
- ⑤ 霊的形成 - 失われた者
- ⑥ 霊的形成 - 神のイメージ
- ⑦ 霊的形成 - 主の栄光を反映させながら
- ⑧ 霊的形成 - 感情の刷新

(●CD(1時間)/500円/●DVD(1時間)/800円)
(CFNJJ、CFNJ卒業生には割引があります。)



「父となる旅路」
-聖書の失敗例に学ぶ子育て-
豊田信行

聖書に登場する信仰の英雄たちも父親としては失敗だらけ。その失敗から見えてくる父性ならではの役割とは？ 幼い日に父を亡くした筆者の喪失からの回復と神との知識、そして自身も父親となった経験と、聖書の登場人物と重なるがら編る。

いのちのことば社
定価：2052円(税込)

学院特別講義

「祈りへの召し」

アラン・ヘルナンデス師

CFNJ 聖書学院の理事長であるロドルフォ・ガルササ師が創立した、メキシコの「エビセントロ聖書学院」の学院長。メキシコ・チワウ市出身、18歳でアメリカのグライスト・フォー・サ・ネイションズ・インスティテュート (CFNI) に入学。家族は、CFNI に入学に出会った妻と二人の子どもたち。メキシコでコースリーダーとして「インヴェイジョン」というコースキャンプを立ち上げ、コースの育成に長く関わってきたアラン師は、現在はアマスタ・デ・モンテレー教会から遣わされて開拓した教会を牧会する牧師でもあります。



■私たちは、「知識」を人々に教えますが、人々を変えるのは「知識」ではなく、私達の「生き方」です。

主イエス・キリストの「祈り」は、実に驚くべきものだったでしょう。この事実を身近にいた弟子達は目撃していました。弟子達の中には「祈り」に対しての強い飢え渇きが起こされた。そしてその秘訣を知りたいと願いました。何事に於いても分からない事は、その専門家から直接に教わるのが良いように、ルカの福音書11章では、弟子達がイエス様に、「説教の仕方」や「水の上の歩き方」、又は、「病人の癒しや悪霊の追い出し」の方法を聞いたりも、それにもまして、「どのように祈ればよいか教えてください。」と願い、そして求めました。彼らは、どうゆう訳かそれぞれが信仰生活に於ける最も重要な「力の泉」と、何故か理解していたのです。

「さて、イエスはある所で祈っておられた。その祈りが終わると、弟子のひとりが、イエスに言った。『主よ。ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください。』」ルカの福音書11章1節

■聖書全体、特に新約聖書は、「祈り」こそが神の国に於ける、敵の領土を征服する為の武器であると私達に教えています。使徒の働きには、「祈り」という言葉が40回以上も出てきます。又、「聖霊」という言葉が、60回以上も使われているのを見ることが出来ます。この事から分かるのは、教会の前進は、この「祈り」と「聖霊」によって成し遂げられたという事です。これこそが教会の

「戦略」でした。そして、現在もそうです！『彼らが主を礼拝し、断食をしていると、聖霊が、バルナバとサウロをわたしのために聖別して、わたしに召した任務につかせなさい』と言われた。そこで彼らは、断食と祈りをして、ふたりの上に手を置いてから、送り出した。』使徒の働き13章2節・3節

■イエス様は又、「名声」や「群衆」(この2つは非常に危険な敵です。)によって、神様を求める道から外れる事はありませんでした。「群衆」は、自分達の必要の為にイエス様を利用しようとしたが、イエス様は、ルカの福音書5章15節、16節を読むならば、大勢の「群衆」に仕えた後に、よく「父」に会う為に、ひとり荒野に退いて祈っておられたとあります。

「しかし、イエスのうわさは、ますます広まり、多くの人を群衆が、話を聞きに、また、病気を直してもらいたいに集まって来た。しかし、イエスご自身は、よく荒野に退いて祈っておられた。」(ルカの福音書5章15節、16節)

これはイエス様であっても「祈る」必要があった事を示しています。勿論、イエス様は、その生涯に於いて、どのような罪も犯すことはありませんでした。しかしそのようなお方であっても「祈る」必要があったのです。この事実は、私たちに次の二つの事を教えます。

第一に、イエス様は、「あらゆる点でご自身と私たちが同じである。」ということを教えてください。(模範を示すことで私達に教えたかった。)そして、第二に、「祈り」は、「神様に依り頼む事の大切さ」

を私達に教えています。この事は、使徒の働きを見ても明らかです。使徒の働きの中で教会は、必死に「祈り」を捧げていました。それは教会がいつも常に、主の臨在と聖霊様を必要としていた事を意味しています。ですから教会は緊急に主の助けが必要だったのです。だから私達は「祈る」のです。私達は、神様からの助けなしには、自分では決して「何事も為し得ない」と理解する必要があります。だからこそ私達は必死に祈るのです。

■マルコの福音書3章14節・15節には、教会の「型」が確立されています。まず「祈り」、「礼拝し」、神様との親密なつながりを持って、それから「御言葉」（説教）を取り次ぎ、そして「ミニストリー」をさせていただきます。

「そこでイエスは十二弟子を任命された。それは、彼らを身近に置き、また彼らを遣わして福音を宣べさせ、悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。」（マルコの福音書3章14節・15節）ルカの福音書8章4節、使徒の働き4章13節と、6章4節を読んでみてください。私達が「祈り」に弱ければ、私達はあらゆる分野で弱いのです。

「さて、大ぜいの人の群れが集まり、また方々の町からも人々がみもとにやって来たので、イエスはたとえを用いて話された。」（ルカの福音書8章4節）

「彼らはペテロとヨハネとの大胆さを見、またふたりが無学な、普通の人であるのを知って驚いたが、ふたりがイエスとともにいたのだ、ということがわかって来た。」（使徒の働き4章13節）

「そして、私たちは、もっぱら祈りとみことばの奉仕に励むことにします。」（使徒の働き6章4節）

■神の前にひざをかめる人は、どのような状況にも立ち向かうことができます。創世記32章では、ヤコブが大変な困難の中にいたのを見ることが出来ます。彼は自分に対して復讐を誓っているような見に直面しなければなりません。また、義理の父との関係も緊張したものと、物事は

すべてうまくいかなくなっていました。今や彼は、そのような状況に一人ぼっちで、神様以外、誰も彼を助けることができないところまで追いつめられていました。24節でヤコブは、「・・・ひとりだけ、あとに残った。すると、ある人が夜明けまで彼と格闘した。」とあります。

「ヤコブはひとりだけ、あとに残った。すると、ある人が夜明けまで彼と格闘した。」（創世記32章24節）

神様は時に私達が「ひとりぼっち」になるような状況を許されます。それは神様だけが依頼るお方であることを、私達が理解する為です。しかし、それこそ勝利する「祈り」の方法なのです。唯一、「隠れたところにおられる神様」に、「奥まった場所」で祈る、そのような「打ち勝つ祈り」によってしか解決され得ない状況があります。主の前に出ていき、その場所にとどまるのです。エレミヤ23章18節は、「『いったいだれが、私の会議に連なり、私のことばを聞ききたるか。だが、耳を傾けて私のことばを聞いたか？』と仰っています。『会議』という言葉はまた、「親密さ」や「秘密」も意味します。

「いったいだれが、私の会議に連なり、私のことばを聞ききたるか。だが、耳を傾けて私のことばを聞いたか。」（エレミヤ書23章18節）

■私たちが主の御言葉を理解し、又、聞く為には、主の御顔を慕い求める場所に行かなければいけません。現代という今時代においても神様は昔からの同じ方法を用いておられます。神の男達、女達を「奥まった場所」に向かわせ、「主の御顔を求めて祈り」、その「祈り」によって家族や国々を揺り動かして勝利を得させるのです。

「主はその御目をもって、あまねく全地を見渡し、その心ご自分と全く一つになっている人々に御力をあらわしてくださるのです。」（2歴代誌16章9節）

2016年度 2学期 授業カリキュラムスケジュール

(2016年9月5日(月)～12月2日(金)迄)

CFNJ 特別講義 ゲストスピーカー

「辛いことよ。全き道を行く人々、
主のみおしえによって歩む人々。」
詩篇109篇1節



9月12日(月)～16日(金)迄

ロドルフォ・ガルサ師

アシスタッド・デ・モントレー
教会、エビセントロ聖書学院
創立者、学院理事長。

全体/3時間目



9月12日(月)～16日(金)迄

有賀喜一師

■日本リバイバルミッション
代表、リバイバル聖書神学校
校長、CFNJ監督学際顧問。

全体/1・2時間目



10月7日(月)～21日(金)迄(予定)

ブルース・マクナルド師

ストレイヤー大学教授・アカ
デミック・アドバイザー

全体/1・2時間目

●ゲストスピーカーの要請は、どなたでも無料で要請出来ます。(自由献金制、テキスト代有料) 通常の要請も要請出来ます。(有料) 又、入学を検討されておられる方には、無料体験入学制度もありますので、詳しくは事務局までお問い合わせください。

1・2年コース (必修科目)

(必修)

	月	火	水	木	金
1 AM8:45~9:40	新約聖書概論Ⅰ	聖書的な家庭	ローマ書	クリスチャンング	組織神学
2 AM9:00~10:55	金聖主	金聖主	三浦雅樹	三浦雅樹	創世記
3 AM11:05~12:00	創世記Ⅱ	今日の聖書Ⅱ	説教Ⅰ	創世記	J・ジャンセン
	龍治川文	龍治川文	龍治川文	龍治川文	龍治川文

アルプスコース (必修科目)

1 AM8:45~9:40	祈り	牧師会カクゴン	旧約の リダーシップ	ヨブ記Ⅱ	執り成し
2 AM9:00~10:55	田中博	小島昭夫	安田倫	五田吉男	田田好弘
3 AM11:05~12:00	主の祭り	リーダーシップの1の要領	主の祭り	聖書釈義Ⅱ	松原 理
	金聖主	龍治川文	金聖主	龍治川文	龍治川文

選択科目

午後 PM13:00~15:00	ドラマクラス 英語クラス ※本名、匿名	カクゴンカクゴン トップ・ブランク ピアソラクラス 新井田路子	新入生ニング 新井田路子	実習 (必修)	ドラマ演劇 クラス 龍治川文
---------------------	---------------------------	--	-----------------	------------	----------------------

新入生の紹介

■去る、4月11日(月)9時より、昨年に続いて大阪から「豊田信行師」をゲストにお迎えして、2016年度の入学式が行われました。この日、新入生4名とアルプスコースへの進級生3名が新たな学びをスタートしました。これからの学びと学院生活の為に祈りをお願い致します。



■私は中学の頃からアメリカに留学して教会に集いたいと思っていました。そのために高校を卒業してまず、普通の英語の大学に行こうとしましたが、落ちてしまいました。そこで、まず、主に祈りました。その後すぐ、いつも通っていた教会の牧師先生がアメリカの聖書学校とつながりがあり、聖書を学ぶこのCFNJ聖書学院の事を教えてくださいました。これも全て神様の導きだと思い、献身して入学しようと決めました。この学院で聖書の事を学びつつ英語も学び、主をもっと知りたいです。

本間 義道 (1・2年コース 沖縄県出身)



■私をこの学院に導いてくださった主イエス・キリストに心から感謝をささげます。無に等しい私を見捨てず、主は愛を注いでくださり、主の使命に生きるという人生の目的を与えてくださいました。主により思いを与えられ、道を開かれ、ここまで来ました。振り返ってみると、これまでの人生にはたまたまの偶れみだけが残り、私自身の功績は一つもありませんでした。命を投げ打ち、わたしを救ってくださった愛する主の御足跡を一步一步辿らせていただくこそ、わたしの願い、わたしの喜びです。この学院で、霊肉共に訓練され、主の重きを持ち運ぶ良き器、良き管へとつくり変えられていきたいと心から願ひ、期待しています。

清野 耕地 (1・2年コース 長野県出身)



■ハレルヤ!主の御名を賛美いたします。私は熊本でのミッションスクールに勤める中で伝道の思いが与えられ、この学院に入学しました。来て日は浅いですが、すでにこの学院を我が家と思ってリラックスし、濃密な主との交わりと学びの時間を楽しんでいます。温かく迎えてくれた学院の皆さん、そしてここに私を導かれた主に、心から感謝申し上げます。主に仕えるこれからの人生のため、この学院での日々を本当に大切にしたいと思います。主に期待します!

吉岡 はるか (1・2年コース 熊本県出身)



■ハレルヤ感謝します。私は学校を卒業後どのようにしたらいいか、希望としては、神様の働き(CSや礼拝奉仕など)また、英語の勉強をしたいと思って折っていましたが、その時に牧師夫人からCFNJを紹介してもらいました。まさかが神学校に入るとは全然想像していませんでしたが、導きかもしれないので3日間断食をして御言を毎日いただいたらこうと思い、御言を求めた所、マルコ8:34、マルコ11:24、ルカ1:45が与えられました。導きを感じ、また将来やりたい事が一致していたのでこの学校に入学しました。入学してからは環境の違いで少し泣いたりしていましたが、御言によって力づけられ、励まされました。神様がすべてを導いてくださると信じ、神様に驚かす、これからの学院生活も期待して、受けた恵みを流していきたいです。

岩本 未優 (1・2年コース 大阪府出身)



■ハレルヤ!主の御名を賛美します!今回、このようにアルプスに導かれたことを感謝しています。この一年間の学びで更に言葉学を深め、主との交わりを大切に、主の勇士として成長していきたいと思ひます。

吉村 一輝
(アルプスコース 兵庫県出身)



■アルプスの入学に導かれたことを感謝します。最初は一般コース(1・2年コース)のみで卒業しようと考えていました。それは、献身するつもりがなかったからです。しかし、1・2年コースを学ぶ中で献身への思いが段々と強くなり、最終的には献身を決断し、アルプスへと導かれました。アルプスの1年間で献身のための良い準備期間となることを心から期待しています。

仲宗根 昇平 (アルプスコース 神奈川県出身)



■私がなぜアルプスコースに進んだかと言いますとまだ神様のことを理解できていないと感じたからです。この学院に来て2年以上たちましたが神様の愛は本当に深く私の頭では到底理解することが出来ませんが、それでも更に知る為に後1年程残りたいと思ひます。お祈りでもよろしくお願ひします。

齋藤 諒 (アルプスコース 青森県)



御霊に満たされた歩みを願う、すべてのキリスト者の為に!

CHRIST FOR THE NATIONS JAPAN BIBLE SCHOOL

あなたも学んでみませんか?

2016年度9月から

2017年1月、4月からの

新入生募集中!

学院の特徴

- ・毎朝の賛美礼拝
- ・充実した学友環境
- ・世界各地からのゲスト講義
- ・個人能力を伸ばす為の多彩な選択科目
- ・卒業後のアメリカ留学制度
- ・2年に1度の海外宣教
- ・バランスのとれた学ぶ科目
- ・超教派

無料体験入学
実施中! (3/24日)
平常授業のある3日間
※詳しくは事務局まで。

ホームページをご覧ください!
cfnj.com



宗教学法人 アジアキリスト福音宣教会・クライスト・フォー・ザ・ネイションズ日本校

- アルプス(教師リーダー)コース
- 1・2年コース
- 短期コース
- 通信・聴講制度
- ★演劇・ドラマコース
- ★タンパノクラス
- ★ドラムクラス
- ★ピアノクラス
- ★英語クラスほか

CFNJ聖書学院

ゴールデンウィーク真っ直中にスタート!

■今年2016年は、ゴールデンウィーク真っ直中、中学校や高校では通常授業が行われていた。5月2日の夜からスタートし、最終日の5月5日迄、初めての、3泊4日の「ユース・フォー・ザ・ネイションズ・ジャパン」が、CFNJ 聖書学院で開催されました!

ホンモノ探求!

■記念すべき20周年を迎えた「ユース・フォー・ザ・ネイションズ・ジャパン (YFNJP)」の今年のテーマは、新約聖書コロサイ人への手紙1章9節の御言葉から、「聖書 (ホンモノ) 探求」でした。毎年、多くの諸教会からのご理解とご賛同を頂いて継続され、建て上げられてきたこの「ユース・キャンパス」が、今回で、20回目を迎えることが出来た事から感謝し、学院のスタッフ、学院生、及び、YFNとユース世代への情熱を持って近隣諸教会から参加したボランティアスタッフ達が、祈りと御言葉をもって話し合い、主が今語られている事を実現したいと願って、準備を重ねました。その話し合いの中で、現代ユース世代が主師記のイステルのように、人々は好き勝手に生きるよな時代!と感じていることが分かりました。善悪の価値観が、個人の自由にゆだねられている今の時代だからこそ、ユース世代の「義」の基準が「聖書」とされ、彼らが「真実」を知る事が出来るようにという思いが与えられ、使徒パウロのように『神のみこころに関する真の知識に満たされますように。』(コロサイ人への手紙 1章9節) という祈りを込めて選ばれたテーマでした。

ゲストに、長沢師を迎えて!

■参加したユースを、拍手と歓声をもって歓迎する「オープニングスキット」で始まったYFNJPは、ゲストスピーカーとして、地元札幌のカナプリズチャーチユース牧師の「長沢 崇史 師」が来て下さり、全3回の「聖書 (ホンモノ) 探求」集会で、ユースを諭す神の御言葉も、とても分かりやすく、熱く、そして、面白く語り、人生が「本物」である事に輝けるようユースを招き、祈り、導いてくださいました。カナプリズチャーチのリードによる賛美では、参加者とスタッフが一つとなつて、歌と踊りをもって全身全霊で主を賛美しました! ハレハヤ!

近隣諸教会からのリーダーが導く!

■また今回のキャンプで、主が見せてくださった祝福は、今までYFNの参加者として受け取る個々とした近隣諸教会のヤング・アダムのリーダーたちが自主的に、そして、積極的に立ち上がり、キャンプを盛り上げ導いてくれた事でした。賛美礼拝と様々なレクリエーションでは、CFNJ 聖書学院の学院生達と共に、ICF教会の「グドール・スカイ兄 (CFNI 卒)」がリーダーとして導き、ユース達は、毎晩ぐつぐつと眠りにつかずにはいられないくらい体を動かしました。又、礼拝クリスチャングループからは「岡田 賛美 (さみ) 姉 (エビセントロ聖書学校卒)」が自分自身の YouTubeメディア伝道の証しを分かち合い、たくさんのユースが同世代の隣人のメッセージに真剣に耳を傾けていました。他にも、CFNJ 聖書学院の卒業生や近隣諸教会のユース・リーダーたちが食事準備のボランティアとして献身的にユースに仕立て下さいました。

第20回
2016
5月2日～5日

YFN レポート!

ユース・フォー・ザ・ネイションズ・ジャパン (YFNJP)



道外からも参加者が!

■今回参加してくれた参加者達は、北海道内だけでなく、本州や海外からも来て下さり、日本のユース達が、喜びに満たされて主を賛美し、主の御言葉に従って献身的に姿を互いに見て、大いに励ましを受け取っていました。レクリエーションでは、毎年ユースからの熱いリクエストが寄せられていた「逃走中」や、YFN大運動会、YFN初の夜レク「まっくらやみやかくれんぼ」など、『またやりたい!!!』というユースからの絶賛を頂きました。そして、今回のYFNの参加者の中に、何名かのイエス様をまだ知らないユース達がいるのですが、彼らにイエス様が触れただけで、一人のユースがキャンプ中に救いを受け取り、他のユースたちが彼を励まし、支える心をもって祈ることができました! ハレハヤ!

分科会での実践的な学び!

■2日に持たれた分科会では、「祈り」「宣教と伝道」「奇跡の人生を祈る」という3つのテーマで、更に3日目は「男女年令別セミナー」と「みことばディスカッション」という小グループでのセミナーが持たれ、ユースの日々の生活に即した実践的な御言葉の学びの時を持ちました。最終日の集会では、参加者達に、今年のYFNで受けた主からの恵みを分かち合ってもらう機会を設け、たくさんのユース達が「本物」である聖書の御言葉と主イエス様に出会い、これからの人生を主に従って歩む決意を、大胆にみんなの前で発表しました。又、去年の月からユース・リーダーとして主への献身の歩を進み出すためにCFNJ 聖書学院で学び始めて、今回、初めてYFNスタッフとしてユースに仕える体験の証しを学院生の「佐藤メグミ 姉」に分ち合ってもらいました。

日曜だけのクリスチャンは止めて!

■今年、「本物」である「御言葉 (聖書)」と主イエス・キリストを求めたYFNJPの中で、私達YFNスタッフが見つけた「本物」は、キリストの体である「ユース1人1人」だったと思います。ユースを送り出して下さった諸教会からも、「日曜だけクリスチャンを止めて、心からイエス様を愛します!」というユース達が起こされ、「日曜礼拝だけでなく、平日の祈り会にも参加したい!」という喜びのレポートも頂きました。このように参加した全てのユースとユース・リーダー達が、その遣わされている様々な場所で、主イエス・キリストの似姿に、御霊により栄光から栄光へと変えられ、本物の輝きをこの地に解放していくと信じて祈ります。

今年も参加者が、心からYFNを楽しんでくれたことを感謝して、唯一真の神、すばらしい主イエス様をお祈りします!
(レポート: YFNJP デルクター / 学院スタッフ 坂本 清憲)

CFNJ聖書学院では、今年の夏に、「国内アウトリーチ」が行なわれます！ 祈りの応援を！



■期間は、7月7日（木）～11日（月）の5日間です。
今回は、「余市、留寿都チーム」、「旭川チーム」、「青森の弘前チーム」の3チームが主に遣わされていきます。
皆様のお祈りのサポートをよろしくお祈りします。

〈お祈りのリクエスト〉

- ・遣わされた地域で、聖書学院生が祝福となり、主の計画が現わされますように。
- ・伝道を通して平安の子に出会う事ができ、イエスの福音を伝えることができますように。
又、救いや癒しが起こされますように。
- ・健康やけがから守られるように。
- ・アウトリーチの費用などの経済的な面も満たされるように。
- ・学生がアウトリーチを通して、更に主の御業、奇跡を体験し主の証人となるように。

CFNJ CD販売・刊行物

CDの裏面に「祈りの指がられた時」のCDの収録曲のリストが掲載されています。



収録曲「神の指がられた時」
定価/1枚 (CD) (送料別) 700円



「神のみことばのいやしの力」
定価/1枚 (CD) (送料別) 1,000円

創刊号から現在までのCDのリストを掲載しています。



「山をも動かす祈り」



「いやしの信仰」



「聖書のバプテスマを受けるには」



驚くべき喜びに満ちた人生の証

「主の恵み尽きることなく」

副学院長 織田川 紀子書

●お申し込みは/学院事務局まで

※サンプルは、右側のページで確認ください。http://www.cfnj.com/media.html



CHRIST
FOR THE NATIONS
JAPAN

宗教学人 アジアキリスト福音宣教会・クリスト・フォー・ザ・ネーションズ日本校

CFNJ聖書学院

〒061-3216 石狩市花川北6条5丁目157
(0133)74-1341・1342 FAX 74-1343

●HP: www.cfnj.com 郵便振替: 02780-4-4688
●e-mail: office@cfmj.com 学院長/織田川利文

